（別紙様式）

平成２９年度　赤穂市立坂越中学校　学校評価・学校関係者評価

1　本年度の学校(園)経営方針

1　学校教育目標

『自信と誇りを抱き。主体的に学び続ける生徒の育成』

～気づき、考え、行動する生徒をめざして～

2　基本方針

⑴　「分かる授業」の創造をめざし、子供たちが主体的に学習に取り組む態度を養う。

⑵　子供たちに夢と希望を持たせ、「豊かな心」を育むとともに、自身や母校、さらには地域への「誇り」を抱かせながら、主体的に生きる力を育む。

⑶　「ノーチャイム」の伝統（自主・自立・自律）を継承し、自ら気づき、考え、行動する生徒を育成する。

2　本年度の学校(園)重点目標

⑴ 確かな学力を育成する。	＜知＞
⑵ 豊かな心を育成する。	＜徳＞
⑶ 健やかな体を育成する。	＜体＞
⑷ 新たな不登校を生み出さない取組を推進する。	＜不登校対策＞
⑸ 特別支援教育の充実	＜特別支援教育＞
⑹ 魅力ある学校づくり、地域に信頼される学校づくりを進める。	＜開かれた学校づくり＞

総合的な学校園関係者評価

○今年度も生徒アンケートで、「学校へ行くのが楽しい」は９０％超であったことが、うれしいが、言い方を変えれば1割の生徒は、楽しいと思っていないと言うことなので、その部分を見逃さず、１００％をめざして欲しい。

○生徒アンケートによると「授業が分かりやすい」と答えた生徒は８８％で昨年と同程度であるが、保護者アンケート結果はその数値を下回っている。学校での授業の様子や、学習内容を保護者に周知する機会を増やすのも一つの方法だと思う。また、習熟度学習やグループ学習の導入で、主体的・対話的学習が、定着し効果を上げていると思われるが、今後もわかりやすい授業づくりに取り組んでいただきたい。

○教職員による自己評価についてはおおむね良好と評価された。ただ、項目によっては評価の低いものがあるので中身をよく検証して欲しい。

○最近の子供はＳＮＳなどの利用でトラブルに巻き込まれるケースが増えていると聞くので、注意喚起すると同時に、子供たちや保護者に啓発する機会を増やして欲しい。

○地域行事への参加率が高く、中学生の存在がとてもありがたく、その役割が大変重要になってきている。今後も、地域との連携を深めて欲しい。

○「学校通信」はよく工夫されており、大変読みやすい。毎月定期的に発行してくれるので、学校の様子や学校の動きがよく分かった。今後もお願いしたい。

○６校園所で相互に教員交流や連携行事を行っていることはいい事である。

○ノーヘルや並進など、登下校の安全指導を継続して行ってほしい。

3　自己評価結果　（Ａ～Ｄ）　Ａ：達成した　　Ｂ：ほぼ達成した　　Ｃ：あまり達成できなかった　　Ｄ：達成できなかった

学校園関係者評価　◎：適切である　○：ほぼ適切である　△：あまり適切でない　Ｘ：適切でない

観点（重点目標）	評価項目（学校園・教師の取組）／評価指標および目標値（期待される姿）		評価資料	達成状況	改善の方策	自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度具体的改善方法
学習指導の充実	項目	協同学習を取り入れた困り感に寄り添う授業	生徒ｱﾝｹｰﾄ	B	・協同学習の深化と、主体的・対話的な授業づくりの推進 ・英語、数学で習熟度学習の深化 ・毎時間プリントを用意するなど、一人一人のニーズに応じた少人数授業のあり方の工夫 ・モジュールを活用した学習タイムを充実させ、基礎基本の定着を図る	◎	◎	・生徒アンケート、保護者アンケートともに、項目ごとに多少の違いはあるが、概ね良好のようである。ただ、どの項目についても、たとえ1人がそう思っていなければ、課題があるものとして、気を抜かず取り組んで欲しい。授業は楽しく、生徒が主体的に生き生きと参加できるよう、今後も工夫して欲しい。 ・習熟度学習や協同学習への取組を継続してほしい。 ・第4学区の通学区域制も定着してきたようだが、保護者の最大の関心事は、わが子の卒業後の進路である。より学力の向上を望んでいるし、今後もわかりやすい授業づくりに取り組んでほしい。
	指標	生徒一人ひとりに学びのある授業の推進						
	項目	基礎・基本を大切にした授業	生徒ｱﾝｹｰﾄ					
	指標	生徒にとって分かる授業の推進						
	項目	一人一人の生徒に対応した指導	生徒ｱﾝｹｰﾄ					
	指標	ＴＴや少人数授業による指導						
	項目	生徒の意見をつなぐ授業	教職員自己評価					
	指標	多様な発言を引き出す発問						
	項目							
	指標							
生徒理解につながる生徒指導	項目	いじめ、非行問題への対応	生徒ｱﾝｹｰﾄ 保護者ｱﾝｹｰﾄ	B	・いじめアンケートを活用した教育相談の推進 ・行動計画に基づくいじめ・非行対策の推進 ・教育相談の持ち方（時期、回数担任の時間確保等）の工夫 ・生活ノートの活用や生活アンケートを活用した指導 ・ＯＳ等、保護者や地域住民が参加できる機会の設定	◎	◎	・いじめは何よりも、未然予防である。道徳も教科になるそうだし、心の教育に時間をかけて欲しい。 ・最近の問題行動は、ネットを利用したもの、特にＬＩＮＥ等のＳＮＳを通じていじめに通じる書き込みが多いと聞く。今後も、生徒とともに、保護者へも情報安全教室を開催してほしい。 ・今後もいじめアンケートと連動した教育相談の継続をお願いします。日頃から、生徒と教師がふれあう時間を確保していくことも重要だと思う。先生は忙しすぎるから、何とかならないものか。
	指標	共感的理解に基づく生徒指導体制の確立						
	項目	家庭、地域、専門機関と連携した生徒理解	生徒ｱﾝｹｰﾄ 保護者ｱﾝｹｰﾄ					
	指標	保護者、地域と連携した行事の推進						
	項目	望ましい集団生活を目指す	生徒ｱﾝｹｰﾄ 保護者ｱﾝｹｰﾄ					
	指標	自ら気づき、考え、行動する生徒の育成						
	項目	思いやりのこころを持つ生徒の育成	生徒ｱﾝｹｰﾄ 保護者ｱﾝｹｰﾄ					
	指標	共に支え合い、高めあう生徒の育成						
	項目	新たな不登校を生み出さない取組	生徒ｱﾝｹｰﾄ 保護者ｱﾝｹｰﾄ					
	指標	生徒理解・保護者との連携の推進						
特別支援教育の充実	項目	特別支援教育について全員の共通理解を図る	研修会の開催及び研修内容	B	・赤穂特別支援学校と連携した交流行事の内容深化 ・毎月の職員会議時に、特別支援教育ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰを中心にした研修会の開催（今年度２回実施） ・教育支援委員会の定期的な開催による共通理解（月1回） ・個別支援計画、指導計画の作成	◎	◎	・赤穂特別支援学校との連携は、とても充実していると感じる。今後も継続していってほしい。 ・特別支援コーディネーターを中心にした指導体制をさらに整備していってほしい。 ・特別支援コーディネーターを中心とした研修会（特に伝達講習）を今後も定期的に実施していく必要があると伺ったが、是非実践して欲しい。
	指標	特別支援教育学習会を毎月開催						
	項目	教育相談と指導を適切に行う	校内委員会の開催及び協議内容					
	指標	特別支援教育校内委員会の定期的な開催						
	項目							
	指標							
	項目							
	指標							

観　点	評　価　項　目（学校園・教師の取組） 評　価　指　標（児童・生徒・園児の状態・行動）		評価資料	達成状況	改善の方策	自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度具体的改善方法
人権教育の推進	項目	人権教育の視点に立った教育活動	生徒ｱﾝｹｰﾄ 保護者ｱﾝｹｰﾄ	B	・主体的、対話的な場面を取り入れ、授業や生活の中で一人一人を大切にする教育活動の実践 ・人権教育、道徳教育の充実による、相手を思いやるこころの育成 ・友だちの良さを見つけた言動を評価し、個人の「自信」と「誇り」の確立	○	◎	・今後も授業において主体的、対話的な場面を取り入れ、一人一人の学びを大切にした授業を構築していくとともに、生徒全員が自己有用感や自尊感情が高揚するよう、更に工夫して欲しい。 ・人権感覚を磨く研修の実施と、生活態度の定期的な振り返りを授業の中で行い、改善につなげていくようお願いしたい。 ・合理的配慮についての取組を進めるなかで、インクルーシブな社会作りへ発展させて欲しい。 ・これからも、先生の存在が最大の人権環境だということを自覚して授業に臨んでほしい。
	指標	一人一人を大切にした教育活動						
	項目	感性豊かな優しい心情を育む	生徒作文 生徒ｱﾝｹｰﾄ					
	指標	思いやりのある行動がとれる児童の育成						
	項目	新たな人権教育の推進	生徒作文 生徒ｱﾝｹｰﾄ					
	指標	体験的・実践的活動の充実						
	項目							
	指標							
	項目							
	指標							
健康安全教育の推進	項目	食育の推進	生活ｱﾝｹｰﾄ 保護者ｱﾝｹｰﾄ	B	・生徒の生活アンケートを生かした保健指導や保護者への啓発 ・外来者への声かけ及び施設等の定期的な点検及び改修 ・危機対応マニュアルの改訂 ・自転車の定期検査の実施 ・交通ルールやマナーの定期的・継続的な指導 ・６校園所の連携による「早寝･早起き･朝ごはん運動」の取組	○	○	・まだまだ、自転車の乗り方等、登下校の安全確保に継続的な指導が必要と感じる。今後も徹底してほしい。 ・「早寝、早起き、朝ごはん」運動のアンケートが１学期に配布されてよかった。今後もＰＴＡへの啓発と保護者と連携した取組をしてほしい。 ・学校生活は危険がいっぱいあることを、生徒に認識させてください。 ・不審者への具体的な対応についての教職員研修と生徒への指導を徹底してほしい。
	指標	「早寝、早起き、朝ごはん」運動の推進						
	項目	危機管理体制の整備	対応ﾏﾆｭｱﾙ					
	指標	外来者等に適切に対応できる						
	項目	安全管理体制の整備	対応ﾏﾆｭｱﾙ					
	指標	事故等に対する適切な対応						
	項目							
	指標							
	項目							
	指標							
教職員の資質向上	項目	新しい情報を取り入れた研修・研究の実施	生徒ｱﾝｹｰﾄ 保護者ｱﾝｹｰﾄ	B	・協同学習による授業研究授業の実施（年２回実施） ・全教員による授業公開 ・道徳の教科化へ向けて、道徳授業研究会の定期開催（月1回） ・継続的な職員研修 ・外部講師（専門家）の活用 ※関西福祉大学助教 新川　靖　先生	◎	◎	・いろんな研修会に参加して、先生自身の資質向上を図ってもらいたい。とはいっても、先生は本当に忙しく、自分の時間を持てていないと思うので、その勤務環境も何とか改善できないものか。 ・これからも、学校で定期的に職員研修を実施し、自己研鑽に励んでほしい。 ・若い先生も増えているようなので、年配の先生の技を伝えていくことが上手くいけばいいと思っている。 ・外部講師の候補者も地域にいろんな方がおられるので、いつでも相談してください。
	指標	研修会の開催と研修したことを生かした実践						
	項目	専門性を生かした教育活動の推進	生徒ｱﾝｹｰﾄ 保護者ｱﾝｹｰﾄ					
	指標	専門性を高める研修会の実施と実践						
	項目							
	指標							
	項目							
	指標							
	項目							
	指標							

自己評価における特記事項

○ 理論的裏付けによる「主体的で対話的な深い学び」の研修を継続し、教科指導・道徳授業等の実践に繋げ、大きな進歩が見られた。
○ 道徳教育について、本年度はTTによる道徳授業という本校では新しい授業形態での授業づくりにも挑戦し、更にはローテーション授業を実施しながら、担任教師だけではなく全教師で道徳の授業を行う体制を整えた。その過程で教師同士の意見交流を深め、その結果全教師の授業力向上へとつなげることがでたと考える。
○ 道徳教育における、全領域の横断的カリキュラムの内容を、より明確に具現化するため、各領域での具体的な取組や環境面での整備、特に掲示物の工夫をはじめ、これまで体系化しきれていなかった、学校全体での一貫性を持った取組として、徐々に成果をあげることができた。
○ さらに、幼小中の連携を強化し、校区あげての教員交流による、相互理解に努めた。
○ 学校だよりを全戸回覧し、できる限り学校や生徒の様子を地域・家庭に発信し、同時に学校に対する意見を求める機会となった。地域の中学校に対する関心が更に高まった。
○ 自己評価の充実を図るため、前年度とのデータを比較できるようにグラフ化し、視覚的理解の向上に努めた。また、「生徒の意識」と「教職員の意識」、「保護者の意識」の相互のずれを比較できるように工夫し、内容の分析に役立った。
○ 魅力ある学校づくりについて、学校目標に「『自信』と『誇り』をいだき・・・」と提示しているように、自分自身はもちろん、坂越中学校や坂越・高雄の地域の良さ（強み）を再発見し、自信や誇りに思えるよう、機会あるごとに呼びかけている。
○ 地域との連携を深める第1歩は、中学生による地域貢献と考え、地域行事への積極参加や清掃ボランティアの実施等、精力的に実施している。

項目以外の点での来年度の課題や具体的改善方法

○子供たちの為に、時間を惜しまず仕事をしてくださいまして、ありがとうございます。たくさんの課題があるかと思いますが、子どもの目にはまず先生方の人柄に魅力を感じ、それが学習意欲やものの考え方に繋がってます。
この一年、安心して子どもを学校に通わすことができたことに感謝するとともに、これからも子供たちの為に支えてやってください。
○子供たちが成長する過程で、地域の方々の協力が必要であることは明白である。その為にも学校は、自ら情報を発信し、地域の活動に積極的に参加しようとする姿勢が重要である。小学生や幼稚園児が坂中生を見て、あこがれるような学校になるように先生方の努力を熱望します。
○夏にある地区懇談会の内容の充実等、活性化を望みます。聞いて欲しい親、来て欲しい親が参加してもらえない現状があると思う。各方面から働きかけて、貴重な行事を有効に活用できればいいと思います。
○道徳の教科化へ向けて、来年度も道徳の授業を公開し見せてもらえる機会があればありがたい。道徳通信も興味深く読ませてもらった。
○来年度は是非、歌声とあいさつが響き、笑顔があふれる学校づくりを推進して欲しい。
○幼小中の連携を更に強化させ、来年こそ校区あげての「あいさつ運動」の推進を実現させてほしい。